

Title	法學研究第三十四卷 (昭和三十六年自一號至十二號) 總目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1961
Jtitle	法學研究：法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.34, No.12 (1961. 12)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19611215-0114

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

法學研究 第三十四卷

(昭和三十六年
自一號至十二號)

總目次

論 說

	號數	頁	通頁	執筆 者
自由黨飯田事件の裁判に關する一考察……………	一	三	三	手塚 豊
債權の準占有と受取證書……………	一	四九	四九	内池慶四郎
農村における公的意決定の方式(共有林分割をめぐる事例研究) ——三重縣鳥羽市松尾町における實態調査(一)——	一	六九	六九	中村 菊 中村 勝 堀江 湛
抗日民族統一戰線形成過程における中國共產黨とコミンテルン……………	二	一	一二五	石川 忠雄
株主の新株引受權の研究……………	二	二三	一四七	阪 埜 光男
最近のブリズィーヴィイ(ПРИЗЫВ)について……………	三	一	二二九	中澤精次郎
ラテン・アメリカにおける軍隊の政治的役割……………	三	三〇	二五八	賀川 俊彦
代理意思について……………	四	一	三一五	林脇トシ子
近郊農村における住民の政治意識……………	四	二九	三四三	堀江 菊 堀江 湛
——三重縣鳥羽市松尾町における實態調査(二完)——				
看護の社會學的研究……………	五	一	四〇九	米山 桂三
軍縮の現代的意義……………	五	二七	四三五	内山 正熊

少年審判の對象と科學的調査の位置	五	五四	四六二	坂田仁
株券の除權判決と株式質權者	六	一	五四三	高島正夫
執行請求權論	六	一八	五六〇	石川明
新彊をめぐる中ソ關係	六	四四	五八六	小田英郎
——盛世才の時期を中心として——				
中國共產黨指導部に關する一考察	七	一	六七五	石川忠雄
——八期中央委員を中心として——				
不當執行論	七	一八	六九二	石川明
ドイツ勞働法における勞働協約の「一般的拘束力宣言」制度	七	三九	七一三	田中祥子
公平な裁判所の理念	八	一	七八一	青柳文雄
贓物罪と本犯との關係 (二完)	八	二〇	八〇〇	中谷瑾子
日米交渉の經過と問題點 (一・二・三・四)	十一	一一	八六七	中村菊男
——とくに日本側から見た場合——				
アメリカ政治史における革新主義 <small>リベラリズム</small> の發生	九	一五	八八一	太田俊太郎
精神狀態の證明	十	一	九五三	平良
——アメリカ證據法における——				
開かれた構成要件と法義務のメルクマール (二・三・四完)	十一	三四	九九六	宮澤浩一
社會的法治國家の行政における計畫 (Plan) について	十一	一	一〇七一	田口精一
民事裁判の對象	十二	一	一一八九	伊東乾

資料

商法計算規定の問題點と改正意見	二	五九	一八三	商法研究會
拷問廢止に關連する諸法律案	三	五四	二八二	手塚 豊
——明治法制史料雜纂(一)——				
「公會條例」および「公會罰則」草案	四	六〇	三七四	手塚 豊
——明治法制史料雜纂(二)——				
司法省修補課(明治十二、三年)關係資料	五	六九	四七七	手塚 豊
——明治法制史料雜纂(三)——				
集會條例質問錄	六	九二	六三四	手塚 豊
——明治法制史料雜纂(四)——				
元老院議員佐野常民の遷都意見書	七	六八	七四二	手塚 豊
——明治法制史料雜纂(五)——				
元老院の「專賣免許條例」草案	八	五二	八三二	手塚 豊
——明治法制史料雜纂(六)——				
元老院における集會條例改正意見書(明治十六年)	九	四九	九一五	手塚 豊
——明治法制史料雜纂(七)——				
秋田縣立志社暴動事件判決書(明治十六、七年)	十	八四	一〇三六	手塚 豊
——明治法制史料雜纂(八)——				
元老院における新律綱領、改定律例復活反對意見書	十一	八五	一一五五	手塚 豊
——明治法制史料雜纂(九)——				
元老院の「教會條例案」	十二	八五	一二七三	手塚 豊
——明治法制史料雜纂(一〇完)——				

判例研究

【行政法】一三 法人所有の土地の買収と憲法第二二條……………	一九九	九九	田口精一
【民法】一六 原被告双方からの離婚請求による離婚判決、および慰謝料請求と財産分 與判決との關係……………	一〇四	一〇四	人見康子
【民法】一七 抵當權の設定が詐害行為とされる場合に生ずる諸問題……………	八一	二〇五	田中實
【商法】一一 約束手形の保證の効力と利得償還請求權との關係……………	八五	二〇九	松岡和生
【行政法】一四 在留特別許可にかんする法務大臣の裁量權……………	六二	二九〇	金子芳雄
【商法】一二 取締役の第三者に對する責任に關する事例……………	六六	二九四	倉澤康一郎
【行政法】一五 行政處分の無効の主張および行政處分の瑕疵の治癒……………	六六	三八〇	田口精一
【民法】一八 期間の定めのない借家契約と民法三九五條の適否……………	七二	三八六	宮崎俊行
【商法】二三 會社の出張所長の權限と商法四二條および手形關係における商法四二條 二項の「相手方」の意義……………	四〇	三九四	米津昭子
【民法】一九 國が當事者となり競争入札の方法によつて締結される賣買契約の成立時 期——入札後の無能力者の詐術と契約の取消の許否……………	一〇五	五一三	林脇トシ子
【商法】一四 手形法一七條但書に當らない場合……………	一一六	五二四	高鳥正夫
【刑法】八 名譽毀損罪の幫助にあたるとしたのが違法とされた事例……………	一一一	五二九	中谷瑾子
【行政法】一六 町議會の除名處分と訴願前置主義……………	一一一	六五三	金子芳雄
【民法】二〇 架空名義人の預金通帳を持參した者に對する辨濟の効力……………	一一五	六五七	内池慶四郎
【商法】一五 商法二六五條と手形行為……………	一二〇	六六二	阪埜光男
【商法】一五 代表取締役が支拂の見込が極めて薄いの拘らず約束手形を振出した場			

合の第三者に對する責任	七	七五	七四九	倉澤康一郎
【勞働法】一〇 非組合員の範圍が問題とされている場合の除名の効力	七	八一	七五五	阿久澤龜夫
【行政法】一七 小作契約解除の制限と財産權の保障	八	六三	八四三	田口精一
【舊法】一七 登記と異なる本店所在地を記載した手形を振出した場合の署名取締役の責任	八	六七	八四七	米津昭子
【民事訴訟法】六 訴訟行為の無効を主張しえない事例	八	七二	八五二	石川明
【民法】二一 配偶者の精神病を原因とする離婚請求における被告の訴訟能力、および民法第七七〇條第一項第五號による離婚、ならびに財産分與の可否	九	一五五	九二一	人見康子
【民事訴訟法】七 第三者を害する目的で當事者が通謀して取得した確定判決の効力	九	六二	九二八	石川明
【民法】二二 意思表示の到達時期	十	九八	一〇五〇	内池慶四郎
【商法】一八 清算中の會社の存續の有無	十	一〇二	一〇五四	米津昭子
【行政法】一八 強行法規の違背と行政處分の無効原因	十一	九一	一一六一	金子芳雄
【商法】一八 有價證券外務員の權限、株式仲買人の株式の名義貸しに伴う責任範圍、及び株式仲買人に對する寄託株券の返還請求の法律關係	十一	九六	一一六六	松岡和生
【民事訴訟法】八 調停申立後夫が住所を變更した場合離婚の訴を夫の前の住所地に提起しうるか	十一	一〇六	一一七六	石川明
【民法】二三 敷金の効力	十二	九三	一二八一	宮崎俊行
【商法】二〇 拾得株券と株式	十二	九八	一二八六	倉澤康一郎

紹介と批評

ジョン・ブローチャー著『勞働契約論』

一 一三 一三 阿久澤龜夫

- R・B・ナイ著『中西部革新主義政治』……………一 一七 太田俊太郎
 ラッカー著『ソ連と中東』……………二 九〇 遠峰四郎
 フィデル・カストロ著『キューバ革命』……………二 九二 賀川俊彦
 オットー・ブッツ著『人間と政治——政治學序説』……………二 一〇〇 奈良和重
 森下忠著『緊急避難の研究』……………三 七三 宮澤浩一
 J・N・D・アンダーソン著『現代世界のイスラム法』……………三 八〇 遠峰四郎
 家永三郎著『植木枝盛研究』……………三 八三 向井健
 マトウエル著『ドイツ社會民主黨』……………四 八七 田中荆三
 中村菊男、田中次郎共譯『ドイツ社會民主黨』……………四 八八 平良
 W・セラマイア著『法的論證——法の進化過程』……………四 八八 平良
 河野密著『日本社會政黨史』……………四 九二 中村勝範
 R・コロンクウェスト著『放逐されたソヴェトの少數民族』……………五 一三一 中澤精次郎
 C・ブラック編『ロシア社會の變質』……………六 一二五 中澤精次郎
 吉岡金市著『森近運平』……………六 一二八 中村勝範
 C・J・フリードリッヒ著『支配と生活形態としてのデモクラシー』……………七 八七 多田眞鋤
 B・H・M・フレッケ著『マーサタラ——インドネシア史』……………七 九四 奈良和重
 中東調査會編『アジア・アフリカ民族運動の實態』……………七 一〇二 遠峰四郎
 J・R・シュミットハウザー著『最高裁判所』……………八 七八 平良
 鈴木竹雄編『株式實務(新版)』……………八 八二 倉澤康一郎
 鮫島眞男著『實用株式會社法』……………八 八二 倉澤康一郎
 平良著『アメリカにおける連邦と州の法律問題』……………九 七二 伊藤正己
 綿貫芳源著『行政法概論』……………九 七七 金子芳雄

勞働運動史研究會編『新紀元』	九	八三	九四九	中村勝範
和田英夫編著『例解行政法』	十	一一〇	一〇六二	田口精一
三上諦聰・石川忠雄・芝田稔共譯『湖北秋收暴動經過の報告』	十一	一一二	一〇六四	宇野重昭
大久保毅一著『農業法人論』	十一	一〇九	一一七九	宮崎俊行
J・S・ルーセック編『現代の政治的イデオロギー』	十一	一一四	一一八四	奈良和重
柳田泉著『日本革命の豫言者 木下尚江』	十二	一〇四	一二九二	中村勝範
中村宗雄著『民事訴訟原理第一冊』	十二	一〇六	一二九四	石川明